

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 元 年 12 月 10 日

事業所名 こどもプラス兵庫教室

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点
環境 ・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4			・ 活動内容や利用人数に応じてスペースの使い分けをしている。
	2	職員の配置数は適切である	2		2	・ 配置は満たしていても人数が足りない事が多く、受け入れる児童の人数も制限されてしまう。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	1	1	2	・ フラットではあるが、トイレが車椅子には対応していない。 今後、該当する児童が入所する場合は改善の必要がある。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	4			・ 日々、子どもたちのことを考え取り組んでいる。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4			・ 今後もしっかりとおこなっていき、よりよい教室運営につなげていく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4			・ しっかりとおこなっている。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	1		・ しっかりとおこない、話に上がった内容は、職員に周知し、業務改善につなげている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4			・ 本部からの運動研修だけでなく、外部の研修にも参加するよう心がけている。
適切 な 支 援 の 提 供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	4			・ 送迎の際や電話等で、家庭での様子や困っていることなどを伺い、支援に臨んでいる。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	2	2		・ 内容を確認し、共通理解を深める。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	4			・ チーム一丸となって、子どもたちの支援に当たることができるよう、しっかりとおこなっている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4			・ その都度、記録を取り、固定化せず毎回楽しく活動できるようにしている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	4			・ 工夫しながらおこなっている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	4			・ その都度考えながらおこなっている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	2	2		・ 長期休暇や時間が取れない時にはミーティングができない場合がある。必ずミーティングを行い、役割分担を伝えていきたい。

関係機関や保護者との連携	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4			・必ずおこない、どのような様子だったのか共通理解に努めている。また、伝達事項も漏れがないよう心がけている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4			・教室で支援をおこなった職員が、数人で振り返りをしながら記録を取るようになっている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	4			・職員の揃う日におこなうようになっている。 ・それぞれの見解を述べ、一致した時に計画を見直すようになっている。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	1	3		・今後意識して取り組んでいくようにする。
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4			・子どもの状況に精通したものが参画しているが、さらに深く理解して臨むため、事前の話し合いを設けている。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	2	2		・行事や下校時刻などの把握には努めているが、保護者からの返信が無い、滞るなどのことがあった場合は連絡と調整がギリギリになるともある。確認を徹底し、迅速に対応できるよう努める。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	4			・看護師や研修を受けた保育者が現時点ではないため、受け入れていない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		1	3	・アセスメントを通して周知をしている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している			4	・今の所、該当する児童はいない。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		1	3	・現在は連携は無いので、今後していけたら良いと思う。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2		2	・近くの児童館が利用者が多く行きづらいものが実状だが、0歳～18歳未満までなら誰でも利用できる施設なので、長期休暇に利用したい。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	2		2	・参加していないため、情報を集める。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4			・送迎時に必ず話をして、情報交換をするようになっている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	2		2	・行っていないため、今後検討していきたい。

保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	3	1	・おこなっている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4		・相談しやすいような関係を築くよう心がけながら、保護者と接し、その都度必要な助言をおこなっている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		1	3	・父母の会、保護者会はなく、保護者同士が対面する機会も設けていない。他教室との合同イベントなど、交流の場になるような催しはある。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4			・まだ苦情が出たことはないが、あった場合に備えて体制を整えている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4			・毎月おこなっている。
	35	個人情報に十分注意している	4			・鍵付きのロッカーに保管し、鍵がかかっているかのチェックも忘れないよう十分に気をつけている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4			・口頭だけでは伝わりにくい時には、話をするだけでなく、書面にするなど工夫をしている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		1	3	・地域の方を招待するような規模の行事はできていない。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4			・掲示している。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4			・火災、地震、水難など、災害の状況を変えて避難訓練をおこなっている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4			・職員間で話しをしたり、研修をおこなったりしている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		4		・現在、該当する児童は無し。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	2	2		・基本的にはアレルギーのある児童への教室からの食物提供は行っていない。アセスメントや保護者からの情報をもとに対応しており、医師からの指示書はない。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4			・おこなっている。